

# しゅうれんかい（修練会）からのメッセージ

公益財団法人豊島修練会 2016年11月9日号（通算第15号）

## 子どもたちへ（小さなお子さんには読んであげてください）

2016年のノーベル賞は、大隅良典（おおすみよしのり）博士が生理医学賞を受賞しました。何十年も続けてきたオートファジーの研究が認められたものです。大隅先生は、若い人に「何とかなるさと希望を持って挑戦してほしい」、子供には「興味を持ったことをどんどんやってほしい」と言っています。今興味を持っていること、やりたいことを一生けん命にやりましょう。でも、勉強も普通に頑張っ



オートファジーとは、自食作用と言い、細部の中のたんぱく質を分解する仕組み（生まれたアミノ酸を栄養素として再利用し、いらぬものは捨てる）の1つです。これをいろいろな病気の治療に役立てる研究が進められています。ちょっと難しかったかな？

## 大人の皆様へ（パパ&ママ、ジジ&ババ）



秋の深まった今頃になると、山で栗を拾ったことを懐かしく思い出す。大きな操りの木の下で、落ちていた栗のイガを、両足で挟むようにして踏む。一方の足で押さえ、もう一方で踏みつけるようにすると、大きな茶色に光った栗がポロリと飛び出してくる。また、木の枝を見上げて、弾けそうないが栗を見つけ、長い竿で叩き落とすのも面白い。気を付けないと、頭にとげとげのイガが落ちてくることもあり、痛い目にあつた。

栗をたくさん採って、家に持ち帰ると母が大げさに喜び、蒸して食べる、焼いて食べる、煮て食べるなどいろいろに料理してくれたことをお思い出す。一番好きだったのは、栗を混ぜて炊く栗ごはんだった。今でも栗ご飯を食べると、栗の香りの中に子供の頃のことがほのかに浮かんで来て、故郷の幼い世界に引き戻され至福の時間を過ごすことになる。

## 学校の先生がたへ

最近、110のメソッドで有名な札幌市の堀裕嗣先生が、授業づくりで大切なこととして「最終目標」の大切さを提言している。この授業が終わった時に子供にどのようなことを身に付けさせたいのか「最終目標」を明確に設定して進めることが重要かつ必要だという主張で、全く同感である。

学生時代に学芸大学の川口延先生の「プログラム学習」の講義を受講した。それを思い出して、昭和40年代末に、「最終目標（現在の本時の目標）」と、それに到達するためのいくつかの「中間目標」を設定して、授業づくりをした。この「最終目標」に子供を到達させるためには、どのようなプロセスで、どのような「中間目標」をクリアーさせていけばよいのかと発想したのである。

公開研究発表会で、このことを提案したが、パソコン活用の授業づくりに関心を持っていた一部の人以上からは全く話題にされなかった。でも、この発想は、今でも、私の、物事を企画立案する時の「ものの考え方」の根幹になっている。

★備考★[成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」のほか「メッセージ」「Q&A」「ほん本ブック」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「成美教育文化会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。ご利用ください。

